

「栄養の日・栄養週間」を機会とした、 健康寿命の延伸につなげる 食育の推進について



栄養ワンダー

Presentation of nutrition 2017

公益社団法人 日本栄養士会

- 期間: 平成29年6月1日(木)～9月3日(日)
- 場所: 全国管理栄養士・栄養士就業先／パシフィコ横浜(仮)
- 対象: 国民／管理栄養士・栄養士
- 主催: 公益社団法人 日本栄養士会、47都道府県栄養士会
- 共催: 一般社団法人 全国栄養士養成施設協会
- 後援: 厚生労働省、農林水産省、消費者庁、内閣府食品安全委員会、神奈川県、横浜市、
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所、健康・体力づくり事業財団、骨粗鬆症財団、児童育成協会、
食品流通構造改善促進機構、全国学校栄養士協議会、全国社会福祉協議会、全日本病院協会、全国老人保健施設協会、
日本アレルギー学会、日本医師会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本看護協会、日本外科代謝栄養学会、
日本骨粗鬆症学会、日本在宅栄養管理学会、日本歯科医師会、日本小児アレルギー学会、日本小児臨床アレルギー学会、
日本静脈経腸栄養学会、日本食品衛生協会、日本腎臓学会、日本スポーツ栄養学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、
日本体育協会、日本透析医学会、日本糖尿病学会、日本病院会、日本病態栄養学会、日本薬剤師会、日本臨床栄養学会、
母子衛生研究会(順不同)
- 特別協賛: 株式会社伊藤園、ゼスプリ インターナショナル ジャパン株式会社、味の素株式会社、一般社団法人Jミルク、株式会社ヤクルト本社
- 協賛: アボット ジャパン株式会社、医歯薬出版株式会社、株式会社いわさき、株式会社エフ・エム・アイ、株式会社おいしい健康、
大塚食品株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社おぎぞ、カゴメ株式会社、キューピー株式会社、栗田興産株式会社、
株式会社クリニコ、公益財団法人 食品流通構造改善促進機構、株式会社セイエントプライズ、SOMPOリスクアマネジメント株式会社、
第一出版株式会社、株式会社タス、公益財団法人 ダノン健康栄養財団、ダノンジャパン株式会社、東洋羽毛工業株式会社、
トアス株式会社、株式会社ドーム、日清オイリオグループ株式会社、日本製粉株式会社、NPC 日本印刷株式会社、日本水産株式会社、
一般社団法人 日本能率協会、ののじ株式会社、ハウスウェルネスフーズ株式会社、長谷川化学工業株式会社、
公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構、株式会社ヘルシーネットワーク、株式会社明治、株式会社夢工房(順不同)

「栄養の日・栄養週間」とは

日本栄養士会では、超高齢・少子社会を迎えた現代の多様化する食・栄養課題の解決を目的に、8月4日を「栄養の日」、8月1日から7日を「栄養週間」と制定、平成29年度は、国民を対象に三つの事業を、管理栄養士・栄養士へ一事業を展開した。

●施策1：特設Webサイト

国民向けホームページ「ニュータス」内に、特別ページを設置。栄養への興味喚起を目的とするコンテンツを展開しました。

○期間：2017年6月1日（木）仮公開
○URL：<https://www.nutas.jp/84/>



●施策2：PRイベント

俳優・谷原章介さんをお招きし、プレス向けイベントを開催しました。

○日程：2017年8月2日（水）
○場所：common ginza



●施策3：栄養ワンダー 2017

全国各地7つの職域の現場4,005人の管理栄養士・栄養士が参加して、国民10万人を対象に、「栄養を楽しもう！」をテーマに各種イベントを開催しました。

○期間：2017年7月25日（火）～9月3日（日）
○場所：管理栄養士・栄養士活動先



●施策4：全国栄養士大会

全国の管理栄養士・栄養士1,500人が一堂に会し、現代の栄養課題の共有、スキルアップを目的とした研修会を実施しました。また、「第1回栄養の日・栄養週間記念式典」も併催、高円宮妃久子殿下にご臨席をいただきました。

○日程：2017年8月6日（日）、7日（月）
○場所：パシフィコ横浜



国民10万人を対象とした食育イベント「栄養ワンダー」について

「栄養の日・栄養週間」事業の一環として、平成29年7月25日から9月3日までの期間中国民10万人を対象に、管理栄養士・栄養士4,005人が主体となり、各所属施設および地域585箇所において、イベント「栄養ワンダー」を開催。「栄養の日・栄養週間」にちなんだ施設独自のイベントに加えて、食生活指針に基づいた「栄養を楽しむコツ」をまとめたオリジナルブックの配布、協賛社提供のキウイフルーツ、野菜飲料のサンプリングなど、栄養に触れ合う機会を創出した。



- 名称：

「栄養ワンダー2017」

- 期間：

2017年7月25日（火）～9月3日（日）

- 会場：

全国585か所（管理栄養士・栄養士の活動先）

- 集計：

総来場者数 124,569人

イベント参加者数 99,356人

管理栄養士・栄養士参加者数 4,005人

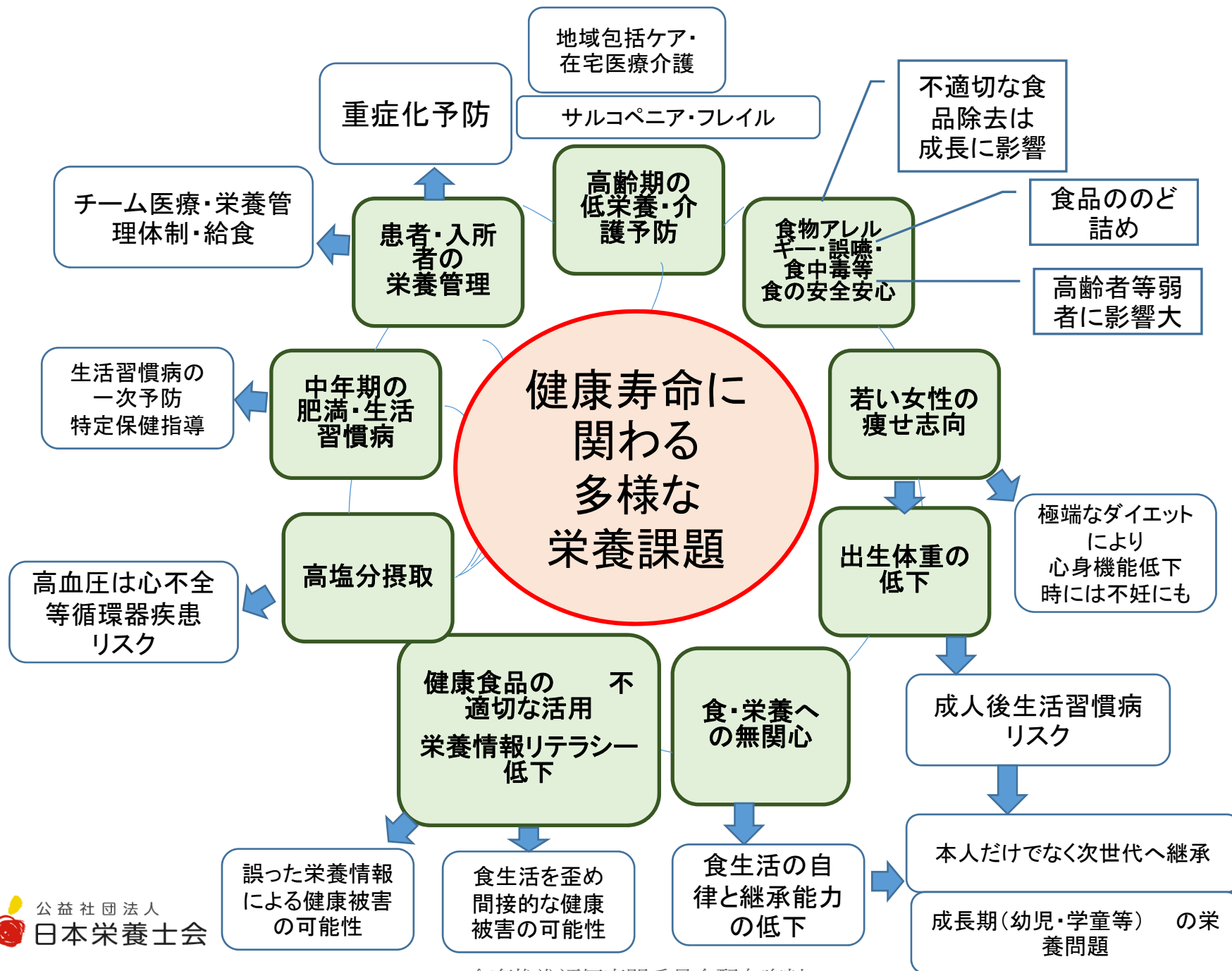


鼎談「科学的根拠に基づく管理栄養士・栄養士の活動」

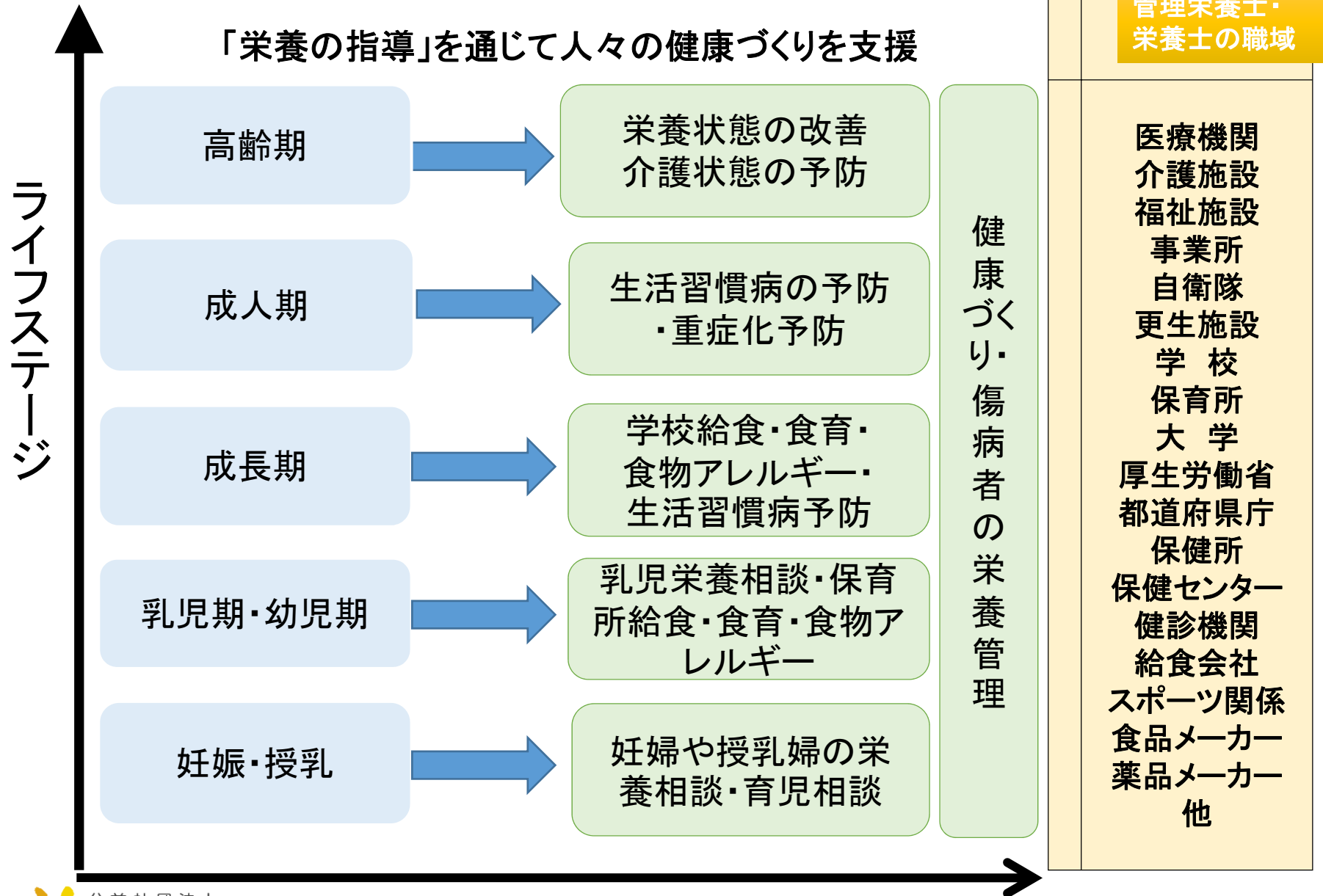
神奈川県立保健福祉大学学長 中村 丁次
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
国立健康・栄養研究所理事兼所長 阿部 圭一
公益社団法人日本栄養士会会長 小松 龍史

「現代日本に栄養問題はない」と言われています。確かに、食料不足による栄養欠乏症は少ない現状にあります。しかし、**食生活の欧米化と日常活動(運動)の軽減による肥満・生活習慣病が増大する一方で、高齢者、傷病者、さらに若年女子に新たな低栄養問題が発生し、我が国もWHOが提言している栄養障害の二重負荷(Double burden of malnutrition)状態になりつつあります。**介護の原因の多くが過剰栄養による生活習慣病と低栄養による虚弱であることから、日本国の基本施策として進められている**「健康寿命の延伸」**を達成するためにも、栄養障害の二重負荷という「新たな栄養問題」の解決に向けた活動が必要と考えます。また、今日の日本では、食に関するさまざまな情報があふれ、各種メディア、インターネットなどの偏った情報に苦慮する国民は少なくありません。私たち管理栄養士・栄養士は、科学的根拠に基づく栄養情報を国民に発信し、この「新たな栄養課題」の解決に向けて活動することが使命であると考えています。

日本栄養士会は、2016年に全ての人の健康の保持・増進を実現するために、「栄養の日(8月4日)」、「栄養週間(8月1日～8月7日)」を制定しました。日本栄養士会は、国民のこの「新たな栄養課題」の理解を高めるために、管理栄養士・栄養士のこの「新たな栄養課題」の解決に向けた活動を促進していきます。



栄養士・管理栄養士は生涯のあらゆるステージで
「栄養の指導」を通じて人々の健康づくりを支援



栄養士・管理栄養士は保健・医療・福祉・教育などさまざまな
場面で健康状態に応じた「栄養の指導」を担う

介護分野
(介護状態の予防、栄養ケ
アマネジメント等)

介護状態の改善→
QOLの向上

入院治療
(栄養食事指導・
栄養管理計画・
クリニカルパスやNST等
チーム医療・患者給食)

食事療養・低栄養状態
の改善→
生命予後の改善

地域一般病院・診療所
地域での外来治療
(栄養食事指導・
在宅訪問栄養指導)

重症化予防→ 重
症患者の減少

健康づくり・一次予防
(食育・学校教育
特定保健指導・
健康増進活動)

健康増進・発症予防→
生活習慣病リスク者の
減少

健康寿命の
延伸

QOLの向上

健康人
の増加

地域包括ケアシステムにおける管理栄養士の役割

高齢者の多様なニーズに応じた食の自立をサポートします。

- 食に関する包括的アセスメントにより、栄養・食生活に関する多様なニーズを把握
- 訪問活動や各種教室開催を通して、一人ひとりの食の自立をサポート

多職種と連携して、食に関する様々な課題を解決します。

- 地域包括支援センターの活動への管理栄養士の参画や地域ケア会議への参加を通し、一人ひとりの食の課題や地域の食に関する課題を解決

住み慣れた地域で、食の営みを支える良好な社会システムの構築に貢献します。

- 食品企業、生産・流通、職能団体、教育・広報関係者及びボランティアなど、食に関する社会資源を育み、食の営みを支えるネットワークづくりの推進



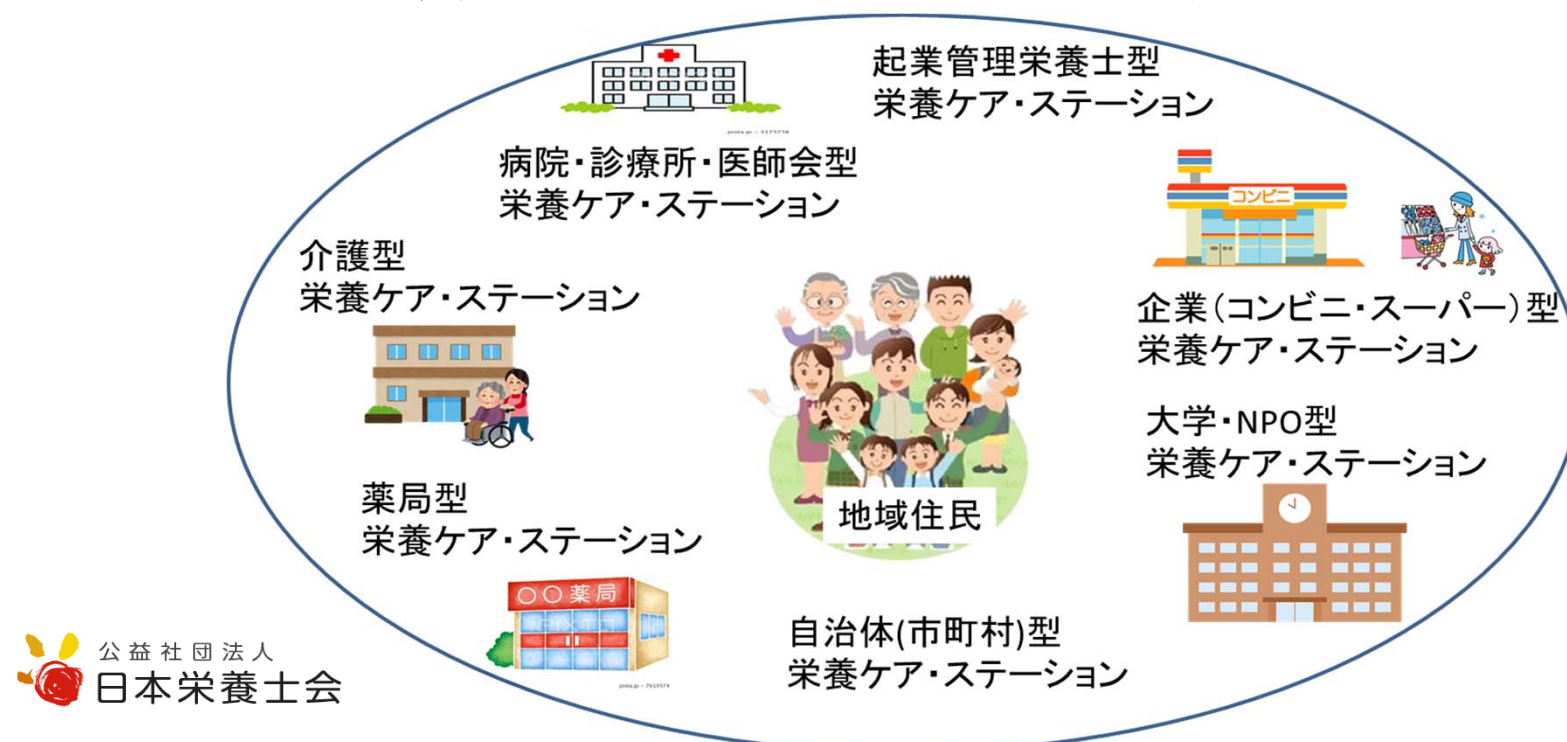
地域社会に密接した地域包括ケアにおける管理栄養士・栄養士の活躍で
いきいきとした暮らしの基本となる食の営みを支え、健康長寿社会を実現します

日本栄養士会は、栄養ケアを提供する地域密着型の拠点として 「栄養ケア・ステーション」の整備を進めています

○都道府県栄養士会の栄養ケア・ステーションをはじめ、全国で237か所に設置

○管理栄養士の勤務する診療所や薬局などの施設も視野に入れ、地域住民一人ひとりの生涯にわたる健康な生活を支えることが出来るよう、様々なタイプの栄養ケア・ステーションの設置を進めることとしています。

様々な栄養ケア・ステーションで地域住民の食の営みを支える



栄養ケア寄り添い型ソリューション事業（よりソリプロジェクト）

1. 全国各地で推進されている**地域包括ケアシステム**の体制整備にあたり、**市区町村単位での栄養ケア提供拠点の整備**
2. 管理栄養士・栄養士が、各地域において在宅療養者や居宅要介護者に対し、継続的な**栄養ケアサービスの担い手となることの周知**
3. 地域がもつ潜在的な健康課題だけでなく、その周辺課題へも対応して解決法を提案できる**人材育成及び確保**
4. 管理栄養士・栄養士による地域における**栄養ケアサービスの標準化**を図るとともに、実践プログラムを作成する。
5. **実践事例を集約**し、地域の特色や特性に沿った取組を推進する。
6. 今後の栄養ケアの需要増大への対応ができる**栄養ケア・ステーション体制を拡充**し、全国の栄養ケア体制を強化する。
7. 関係機関、関係職種等との**連携強化**

日本栄養士会は栄養ケアを担う人材育成及び確保の体制を整備し、関係機関、関係職種等と連携し活動拠点整備、マニュアル作成、モデル運営等の実践により、本事業を推進する。

健康寿命延伸を担う分野別人材育成

特定分野認定管理栄養士・栄養士：この制度は社会的ニーズが

大きい特定の分野で活動をリードできる人材として認定

特定保健指導の分野（**特定保健指導担当管理栄養士**）

静脈経腸栄養管理の分野（**静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士**）

在宅訪問栄養食事指導の分野（**在宅訪問管理栄養士**）

（日本在宅栄養管理学会養成、共同認定）

スポーツ栄養の分野（**公認スポーツ栄養士**）

（日本スポーツ栄養学会養成、日本体育協会共同認定）

食物アレルギーの分野（平成30年より開始予定 アレルギー3学会協力）

専門管理栄養士制度（医療分野中心、高度な専門スキルを持つ人材の育成）

この制度は厚生労働省からの支援*もあり、医学や栄養学の関連学会との連携や協力を得て当該学会と日本栄養士会の共同認定している。

がん病態栄養専門管理栄養士*（日本病態栄養学会共同認定）

腎臓病病態栄養専門管理栄養士*（日本病態栄養学会共同認定）

糖尿病病態栄養専門管理栄養士（日本病態栄養学会共同認定）

摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士*
（日本摂食嚥下リハビリテーション学会共同認定）

在宅栄養専門管理栄養士*（日本在宅栄養管理学会共同認定）